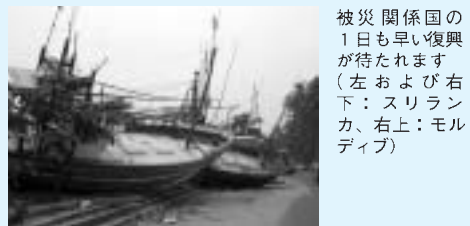


財団法人 日本国際協力システム

2005年3月10日(毎四半期発行) ●編集発行人: 櫻田 幸久 ●発行所: (財)日本国際協力システム 〒162-0677 東京都新宿区富久町10番5号 新宿EASTビル Tel: 03-5369-6960 Fax: 03-5369-6961 http://www.jics.or.jp

速報 スマトラ沖大地震およびインド洋津波被害へ迅速な対応

被災国に対するノン・プロジェクト無償資金協力の調達監理をJICSが担当



被災関係国の1日も早い復興が待たれます(左および右下: スリランカ、右上: モルディブ)

2004年12月26日に発生したスマトラ沖大地震およびインド洋津波被害について、日本政府は関係被災国であるインドネシア、スリランカおよびモルディブ各国政府に対し、総額246億円のノン・プロジェクト無償資金協力を行うことを2005年1月17日、各国政府との間で合意しました。

JICSは、これに先立ち、必要となる物資の確認のため、1月5日より各国に調査団を派遣しました。そして各国と日本との政府間合意にもとづき、インドネシアおよびモルディブについては1月17日に、また、スリランカについては2月3日に、それぞれ各国政府と調達監理契約を締結し、各

国政府の代理機関として、資金の管理、必要となる物資およびサービスの調達を行うこととなりました。

■関係被災国に対する日本政府の支援額

国名	支援額
インドネシア	146億円
スリランカ	80億円
モルディブ	20億円
合計	246億円

JICAの現地調達をトータルで遠隔支援

技術協力支援サービス総合案内を開設

独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する技術協力事業の機材調達は、平成16年度から始まった在外事務所への権限委譲に伴い、本邦中心の調達から原則として現地調達へと大きな変化を見せています。

JICSは、従来から本邦調達業務(供与機材、携行機材の購送等)や海外調査業務(機材計画調査および現地調達支援等)

等によりJICAの機材調達を支援してきましたが、新たな支援サービスをメニューに加えることとなりました。特に、昨年10月より開始した「機材調達ヘルプデスクサービス」は、関係者が機材調達に関する情報を迅速に入手できるようにと開発されました。

また、JICSはこれらの機材調達支援

サービスを今まで以上に活用いただくために、このたびJICSホームページ内に各種支援サービスをわかりやすく説明した「技術協力支援サービス総合案内」ページを開設しました。関係者の皆様には、ぜひ一度アクセスしていただき、ニーズにあったサービスを見つけていただければと思います。

平成15年度 対中華人民共和国 緊急無償

「SARSとの戦い」の現場 第2次モニタリング調査実施



(左) 安徽省立病院で活躍する移動式X線装置と担当の医療関係者
(上) 安徽省合肥市兒童病院に配置されたICU(集中治療室)モニターセットと輸液ポンプ

2003年10月に北京等沿海部で実施された第1次モニタリングに引き続き、第2次モニタリングとして昨年10月に安徽省と広西壮族自治区へ調査団を派遣し、医療器材等の活用状況などの確認を行いました。

最前線での援助物資活用状況を確認

調査団は可能な限り多くの「SARSと

日本からの緊急無償を通じて送られた医療器材が設置され、発熱患者の診断、患者発生の場合の治療、医療従事者の感染防護、感染地区の消毒等に備えました。省衛生庁・民政部は連名で特別の通達を发出し、援助物資の使用状況の報告を義務付けるとともに、管理の明確化を求めました。省衛生庁の調査によれば、援助物資の95%は実際に使用中であり、5%はSARS発生時の緊急用として倉庫に保管されているとのことでした。昨年4月のSARS再発の際には、省疾病予防抑制センターに配置されていた20着の防護服はすべて使用され、隔離区内の消毒のため薬剤噴霧器がおおいに活用されたとのことでした。

内陸部は、沿海部に比べ経済発展が遅れており、医療施設も必ずしも十分整備されていない状況にあります。今般の調査を通して、さまざまな面において厳しい状況にある地方医療機関において、日本からの緊急無償援助器材が医療関係者によって感謝されつつも大切に活用されていることが確認できました。

の戦い」の現場を訪問し、器材の現況を視察した上で使用状況を関係者から聴取しました。その結果、活用状況、メンテナンス状況とも非常に良好であることが確認されました。

安徽省での2003年のSARS患者発生は10名で終息しましたが、その後も再流行防止のため省内38カ所の医療機関に対し、

中国内陸部における調査

2003年5月9日、日本政府は対中国SARS対策支援として約15億円の緊急無償援助を発表、JICSは調達監視機関として、移動式X線装置、ICU(集中治療室)モニターセット、簡易人工呼吸器セットなどの医療器材や防護服などの調達を担当しました。

平成15年度 対カンボジア 紛争予防・平和構築無償

カンボジア平和構築の活動状況

JICSは、本プログラムの監視機関として平成14年度よりカンボジア国内に日本小型武器対策支援チーム(JSAC)を発足させ、小型武器削減開発プロジェクトなどを実施してきました。以下に本プログラムにおける近況をお伝えします。

カンボジア国内務省職員が福井県警を視察

JICSのカウンターパートであるカン



福井県警で武器管理登録についての説明を受けるカンボジア国内務省職員

ボジア内務省のOum Kim Lek武器弾薬管理部長およびTeand Sokheang警察長官補佐室副室長がJSACスタッフ同行のもと、昨年11月27日から12月4日の間来日し、福井県警を視察しました。

この視察は、本プログラムの下、武器管理・登録プロジェクトの一環として、カウンターパートが日本の警察における武器管理の現状を視察することを通して、カンボジアにおける武器管理制度の見直しと質の向上をはかることを目的とするものです。

視察団は来日中、福井県警のほか警察庁の科学警察研究所を訪問しました。日本で得た知識や経験がカンボジアで生かされ、同国警察の発展に寄与することが期待されます。

小学校校舎の引渡しおよび第3回小型武器破壊式典の開催

昨年9月23日、JSACは、カンボジア中央



燃やされる小型武器は「平和の炎」

政府およびシエムリアップ州政府と協力して実施している小型武器削減と開発プロジェクトによって建設した小学校の引渡式を行いました。

あわせて、シエムリアップ州で回収された武器の一部の破壊式典が挙行政され、日本側からは井上公使が、カンボジア側からは内務省次官やシエムリアップ州知事が出席しました。

TOPICS / 事業短信 / 事務所便り

内務省次官からは、「児童が安心して学習できる校舎を建設していただいたことは、児童の学習環境の向上という点で有意義である。また、本日3,148丁の武器を破壊することで、武器に起因する犯罪が

確実に減少した」と、日本の援助とJSACの活動に感謝する旨のスピーチがありました。カンボジア国内での関心も高く、式典の様子は現地TVニュースでも大きく報道されました。

小学校校舎落成のテープカットを行う井上公使



平成15年度 食糧援助 (KR)

全案件の船積み 完了

JICSは平成13年度食糧援助(KR)より調達監理業務を実施しています。平成15年度においては20カ国と調達監理契約を締結し、昨年6月から9月にかけてそれぞれの国の政府関係者立会いのもとにJICSにおいて入札会を開催し、すべての国に

向けた食糧の船積みが完了しました。昨年12月26日の津波によって被災したモルディブにも、援助食糧(小麦粉)が到着しました。

昨年はアフリカの多くの国で、砂漠バ

ッタのために農業作物が大きな被害を受けており、食糧不足が懸念されています。平成15年度KRは、このような食糧不足の状態にある国々での食糧事情改善に役立つことが期待されています。

平成15年度 食糧援助 (KR) 実績

地域	国名	援助食糧
アジア	モルディブ	小麦粉
	モンゴル	小麦
	ネパール	政府備蓄米
アフリカ英語圏	エリトリア	小麦
	エチオピア	小麦
	ガンビア	政府備蓄米
	モザンビーク	政府備蓄米
	アンゴラ	政府備蓄米
	タンザニア	政府備蓄米
アフリカ仏語圏	ベナン	政府備蓄米

地域	国名	援助食糧
アフリカ仏語圏	ブルキナファソ	政府備蓄米
	カーボベルデ	政府備蓄米
	コンゴ(民)	政府備蓄米
	ジブチ	政府備蓄米
	ギニア	政府備蓄米
	マリ	政府備蓄米
	モーリタニア	政府備蓄米
	ニジェール	政府備蓄米
	ザンメ・プリンシペ	政府備蓄米
	セネガル	政府備蓄米



対アフガニスタン 復興支援 経過報告

カンダハル・カブール間 幹線道路改修計画 第二プロジェクト完工式

昨年12月9日、カンダハル市にて、グルアガ・シェルザイ公共事業大臣、奥田紀宏在アフガニスタン日本国大使、緒方貞子JICA理事長などの参列のもとカンダハル・カブール間幹線道路改修計画(第二プロジェクト)の完

工式が行われました。JICSからは長谷川庄司プログラムマネージャーが出席しました。

JICSはアフガニスタン政府の代理人として、2003年12月に完了した第一プロジェクトを継続し、カンダハルを起点とした50km区間の本格的な舗装工事*について案件監理を担当しました。

*本格的なアスファルト舗装工事、道路幅・路肩拡張、サイドおよびセンターライン引き、標識設置

「プロジェクトマネージャー 研修」を実施

業務の効率と品質の向上を目指して

近年「アフガニスタン道路補修プロジェクト」「アフガニスタン地雷除去機開発支援プロジェクト」「カンボジア小型武器回収プロジェクト」など、機材調達のみにとどまらず、プロジェクト全体を管理する業務の重要性が増しています。JICSではこうした事業環境に対応するため、組織内部の強化に取り組んでいます。

まず、昨年6月より従来の「部・課単位の業務実施体制」か

ら、「プロジェクトベースで業務を実施する体制」へと組織改編を行いました。併せて、職員を対象に「プロジェクトマネージャー研修」を実施しています。この研修は、国内においても急速に注目を集め体系化が進められている「プロジェクトマネジメント」の手法について基礎から学ぶもので、プロジェクトマネジメント手法を日常のプロジェクト実施に適用することで業務の効率および品質の向上を図ることを目的としています。

JICSは、今後もさまざまな職員研修の機会を通じて、「プロジェクトベースで業務を実施する体制」の強化を図っていきます。

カブール事務所便り その7

孤児院に古着を寄付

所長 川上 宣彦

1月31日、カブール市内のAllahuddin 孤児院に古着を手渡した。内容はジャンパー300着、ズボン300着、セーター300着、それに新品のソックス372足。これらは毎秋東京で開催される「国際協力フェスティバル」で行ったバザーで得た10万円をもとに購入したものである。古着はカブールの古着問屋でまとめ買いし、質のいいものを安く大量に購入することができた。

昨年、JICSの有志に呼びかけて家庭で眠っているおもちゃや文具を本部で集めて、それらをこの孤児院の子どもたちに配ったが、ぬいぐるみやミニカーを手にした子どもたちの喜びようは大変なものであった。

院長のGhulali 女史は、「孤児院では制服のような同じ色・形の服を支給しているだけなので、常に衣服は不足している状態です。冬季に入ってこれだけの衣料品を寄付していただき非常にありがたいです。特に、ここ数日最低気温が氷点下17℃という厳しい寒さのなか、十分な衣服がなく困っていたところでした」と語り、何度も「タシャクル(ダリ語でありがとう)」を繰り返した。



川上所長(中央)と寄付された服を着てみる子ども。寒いため室内でも帽子、厚着が欠かせない

*「国際協力フェスティバル」 出展については本紙No.57を参照ください

「国際協力を志す人のためのキャリアフェア2004」に出席

「国際協力」に意欲のある方々にJICS業務を紹介

昨年11月21日、独立行政法人国際協力機構（JICA）主催による「国際協力を志す人のためのキャリアフェア2004」が、東京・両国で開催されました。国内初の総合的な国際協力キャリアフェアに、国際協力を通じて世界に貢献した

いという強い意志を持つ1,100人を超える学生や社会人の方々が会場を訪れました。

JICSはこのような採用関連イベントへの参加は初めてでしたが、出展ブースには約60名の方々の来訪があり、参加者の「国際協力」に対する熱い思いに直接触れることができ、大変有意義なものとなりました。また業務内容や採用情報の説明を通して「JICSが調達監理機関として平和構築関連業務を実施して



JICSブースを訪れた参加者の相談に対応するJICS職員

いることを初めて知り、ぜひ採用試験を受けたい」との声をいただくなど、調達監理機関としてのJICSの認知度を高めるよい機会となりました。

支援団体決定

平成16年度 NGO支援事業

JICSの「NGO支援事業」は、国際協力の場で活躍するNGOの発展に貢献するため、JICS創立10周年を記念して平成11年度より開始されました。この事業は、1件あたり100万円を上限に、活動に必要な資機材の購入費、輸送費、現地プロジェクトおよび団体基盤強化のための団体運営費の支援を行うものです。

6年目となる平成16年度は、JICSホームページ、国際協力情報誌などにおいて募集を行い、15件の応募がありました。

応募事業の審査にあたっては、外部の有識者による事前審査および外部有識者を含む「NGO支援事業審査委員会」にて検討を行い、以下の11団体に対して総額約970万円の支援を決定しました。

今後は、支援事業の実施状況についての報告を受けながら、各団体の活動をフォローしていきます。

平成16年度JICS：NGO支援事業採択事業（申請順）

JICS契約先	活動国	支援対象プロジェクト内容
特定非営利活動法人 21世紀協会	フィリピン	地理的条件の悪さから開発が遅れているミンドロ島における結核の撲滅のための教育や、医療環境整備を行う。
特定非営利活動法人 日本カンボジア交流協会	カンボジア	図書館の図書を増やし、地域の人々にさまざまな本に触れる機会と場を提供する。
横浜NGO連絡会	日本	全国のネットワークNGOが一堂に会し、世界や国内のさまざまなセクターとの連携の促進、国際協力への貢献のためできることの情報共有や検証を行う。
特定非営利活動法人 幼い難民を考える会	カンボジア	伝統的な織物が失われつつあるカンボジアの伝統文化の保存と、修了生の染織技術のフォローアップのため、染織工程のテキストを作成する。
緑のサヘル	日本	事務処理の迅速化、情報共有化および会員拡大のための広報の充実のため、パソコンを購入し運営の安定を目指す。
地球市民交流基金 EARTHIAN	パキスタン	スラム地区の職業訓練所のミシンを10台増やし実践的な職業訓練を行える環境を整える。また、子どもたちの作品を紹介し、プロジェクトの状況を伝え、支援協力の促進を促す。
特定非営利活動法人 セカンドハンド	カンボジア 日本	1. 貧困地域での医療環境の改善を目指し、ベッド用マットおよび医療用器具を送る。 2. 市民がもっと気軽に国際協力に参加できるように、品物も寄付として換算できるシステムを構築する。
特定非営利活動法人 日本チェルノブイリ連帯基金	イラク	医薬品も医療機器も十分ではないイラクでは、子どもたちの先天性異常や白血病が増加しているが、重篤におちいる子どもたちの治療が思うようにできない状況にある。そこで、日本のNGOでネットワークングし、必要な医薬品や医療機器を支援する。
特定非営利活動法人 アフリカ地域開発市民の会	ケニア	エイズ予防のため、伝統助産婦、幼稚園教員および基礎保健トレーニング修了者へのエイズ・トレーニング、一般の住民へのエイズ啓発ワークショップを実施する。
特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター	日本 フィリピン	現地でプロジェクトを実施し、国内でも活動への理解を得るために広報を行ってきた。その結果集まったボランティアを育成するためにワークショップ等の場を提供する。
地球市民の会かながわ	タイ ミャンマー	タイの山岳民族の子どもたちを対象に教育体制支援を行ってきたノウハウを活用し、ミャンマーでも学校寮を運営するため、タイとミャンマーの中間地点にオフィスを設け、情報交換、運営調整を行う拠点とする。

狭山中央中学校の皆さん 再来訪

総合学習で「国際協力を考える」

昨年12月7日、2003年に引き続き埼玉県狭山市立中央中学校3年生11名の皆さんがJICSを訪れました。総合学習の一環として「国際協力を考えよう」をテーマに訪問された皆さんからは、調達物資から援助に携わる者の心がまえにいたるまでさまざまな質問が寄せられ、なごやかな雰囲気の中、職員が各自の従事した業務や経験をもとに説明しました。生徒の皆さんからは、「ODAなど

援助の意義を認識できた」などの感想をいただきました。



調達物資について説明する職員



真剣に聞き入る生徒の皆さん

■無償資金協力関連事業の実績データ

（2004年11月～2005年1月）

■調達監理契約締結 *調達代理契約締結含む

感染症対策無償（平成16年度案件）

ザンビア/第二次感染症対策計画

1月12日

イラク/サマウ市ゴミ処理機材供与計画

1月13日

イラク/ムサンナ県プライマリーヘルスセンター整備計画

1月13日

ノン・プロジェクト無償（平成16年度案件）

ラオス

12月10日

カンボジア

12月13日

スリランカ

12月16日

エチオピア

12月16日

インドネシア/スマトラ島沖大地震

及びインド洋津波被害に対するノン・プロジェクト無償

1月17日

モルディブ/スマトラ島沖大地震及び

インド洋津波被害に対するノン・プロジェクト無償

1月17日

スリランカ/スマトラ島沖大地震及び

インド洋津波被害に対するノン・プロジェクト無償

2月 3日

■入礼会の実施

感染症対策無償（平成16年度案件）

カンボジア/感染症対策計画

11月10日

食糧増産援助（平成15年度案件）

ニカラグア

1月11日

文化無償（平成16年度案件）

タジキスタン/サドリディーンアイニー・アカデミック劇場に対する楽器

11月 4日

グアテマラ/グアテマラ自治スポーツ連盟に対するスポーツ器材

11月 4日

ニカラグア/ニカラグア国立オーケストラに対する楽器

11月11日

パナマ/国立図書館に対する視聴覚機材

11月11日

スウヰランド/国立博物館に対する保存・展示機材

11月18日

フィジー/情報・通信・メディア省テレビ制作部局に対するビデオ撮影・編集機材

12月 25日

ボスニア・ヘルツェゴビナ/ボスニア・ヘルツェゴビナ公文書館に対するマイクロフィルム機材及び保存機材

11月25日

アゼルバイジャン/アゼルバイジャン国立図書館に対するマイクロフィルム及び視聴覚機材

12月 2日

アルメニア/エレヴァン・スポーツ・文化センターに対する音響機材

12月 2日

リトアニア/リトアニア国立オペラ・バレエ劇場に対する音響機材

12月 9日

コロンビア/ルイス・アンヘル・アランゴ図書館に対する視聴覚機材

12月16日

カンボジア/出版・配布会社に対する印刷機材

12月16日

エチオピア/エチオピア国立図書館に対するマイクロフィルム機材

1月27日

シリア/文化芸術アサド・ハウスに対する楽器

1月27日